

会 議 報 告 書

日 時	令和 4 年11月22日（火） 午後 6 時00分～午後 7 時20分
場 所	安平公民館 多目的ホール
件 名	地区別計画の策定に伴う事前説明会
出席者	参加者～13人（男7. 女6） 政策推進課～ 4 人
配付資料	①地区別計画（協働実行プラン）策定の取組みについて →参考資料：活動事例 3 組織、廃校活用事例 3 件 ②NPO法人いんくるらぼの概要
打合せの概要	<p>このことについて、安平地区で地区別計画(協働実行プラン)の策定に向けた事前説明会を実施したので、次のとおり報告します。</p> <p>◆質疑</p> <p>参加者 ～ 農業サイドで実施している農地・水協議会のように、地域で実施す草刈作業などの共同の取組みに対して助成してもらえるのは有難いことだが、その取組みを地域でやってしまうと、あとは地域に任せて町は手を引くことにならないか心配。</p> <p>例えば、鳥取県の事例紹介にあった道路整備でいうと、道路整備はこれまで町に対して地域が要望し、それを受けた町の責任において実施してきた。当然今後もそうでないと困るわけだが、この取組みを実施することで、従来町で行っていた道路整備や除雪作業などまで、地域の共同作業でやってくださいということだと、それを地域で組織する団体で対応するのは到底無理な話。高齢者の多い地域で、こうした作業まで共同でやってくださいというのは難しいと思う。町の方できちんと対応していくべきだと思う。この辺の考え方はどうなっているのか説明してほしい。</p> <p>また、ここでいう地域運営組織というのは、安平地区の連合自治会の役員が担っていくということなのか、その辺についても説明してほしい。</p> <p>政策推進課～ 道路整備のようなインフラ整備は、これまでと同様に町が責任をもって対応するのが基本的な考え方。今回の取組みは、こうした基本的な考えのもとで取り組んできた行政の対応が行き届かないところを地域で共同して取り組む場合、こうした地域ニーズに合った取組みに支援できる仕組みとするイメージです。</p> <p>例えば、町道の除雪作業であれば、幹線道路を優先して入りますが、それ以外の生活に身近な町道は後回しになってしまう。また、独居老人等の住宅の除雪は、これまで地域ボランティアやシルバー人材等の方々に支えられて成りたっているが、今年のような大雪だと、シルバー人材の手も回っていかない。</p> <p>こうした従来の住民サービスでは行き届かないソフト的な取組みを、地域でフォローするような共同の取組みに支援する内容となっています。</p> <p>また、今回の事前説明会の開催を含め、計画策定委員会については、連合自治</p>

会役員の方々に担って頂いており、その役員の方々と事務局の一員である役場が連携しながら、今後はワークショップを開催するなどして、安平地区でのプランづくりを進めていく流れになっています。

参加者 ～ 計画策定委員会は資料3ページのとおり、連合自治会の役員の方々が担って頂けるのはいいのですが、今後に設立を目指していく地域運営組織の役員は連合自治会の方々が引き続き担っていくことではないという理解でいいですよ。農村地区の連合自治会の役員は毎年変更するので、連合自治会役員の充て職という形で地域運営組織を運営していくことは難しいと思うので、その辺を確認させてください。

政策推進課～ おっしゃるとおりで、連合自治会の役員で担っていくことは想定していません。6月に連合自治会の役員の方々にこの取組みを説明したときにも、いまの役員は従来の自治会活動で手一杯なので、この新しい組織は、今後の安平地区の未来を担っていく存在である若手や中堅の方々が中心となって運営する形が望ましいとした意見を伺っています。そうした経緯もあり、新しい組織の担い手は、中堅・若手に声をかけながら、この取組みに賛同をもらえた方々を中心に、それが少数になったとしても、少しずつ出来ることから、財源をもとに計画的に、持続的に進めていこうという考え方をしております。そして、この取組みの輪を徐々に大きくしていくようなイメージです。

参加者 ～ この取組みは、多くの地域住民の声を丁寧に聞き取っていくことが何よりも重要だと思えます。ですので、参加者の少ない数回のワークショップだけでプランをまとめて、それで終わりということにならないようにしてほしい。

少ない意見で取りまとめたプランが、地域全体の計画ということにはならないと思うので、新しい組織とその活動が地域で浮いた存在にならないように、地域に寄り添うような形で、時間がかかってもよいと思うので丁寧な取組み方で進めてほしい。

政策推進課～ そのとおりだと思います。地区別計画の策定とその実践は、今後立ち上げる地域運営組織を中心に、毎年、進行管理を行いながら、PDCAサイクルによるブラッシュアップをしていくことが組織の運営上においてもとても重要なこととなります。そうした視点から、このプラン作成に必要な地域住民のワークショップについてはPDCAサイクルの一環として毎年開催することができますので、組織立上げ後は、地域住民で知恵を出し合いながら、地域にあったやり方で継続的に実施していくことが大切だと思います。今回は、12月6～7日の2日間のワークショップと、その内容を共有する全体報告会が地域での合意形成の場となります。

この場が、例え、参加者が少ない人数になったとしても、この取組みをひとつの機会として、安平地区での新しい地域づくりに向けた取組みを、出来ることから少しずつ、毎年丁寧に進めていければと考えております。

参加者 ～ この新しい取組みは、少子高齢化の進んだ安平地区にとって必要な

ことだと思うが、高齢者はいまの自治会活動や毎日の暮らしに精一杯のなかで、これ以上何か新しいことをやっていくことは、気持ちがあっても体が追い付かないと思う。この取組みを進めるには、今日の事前説明会もそうだが、もっと若い人達に参加してもらわないと難しいと感じる。

政策推進課～6月に開催した連合自治会の役員の皆様からも同じようなご意見を頂いており、佐々木会長からは、これまで地域活動に関わっていなかった若手や中堅の人たちが、将来の安平地区を担っていくことになるので、この人たちが新しい組織の中心となるような体制づくりを進めてほしいとの宿題を頂いているところです。

こうした意向を受け、12月6～7日に開催するワークショップに先立ち、まだ一部の地域内のグループや個人に対してですが、この取組みへの参加をお願いしに回っており、一定の賛同は得られていると感じております。そのなかで、中堅層のグループのメンバーからは、「みんな自分の仕事をしながらの地域活動になるのだから、無理をしないことと、言い出しっぺが責任を取らされることのないように、楽しみながら継続できる仕組みにしていくことが大切だと思う。そして、少数になっても良いので、それを出来る人で組織をつくり、強制にならないように、その輪をひろげていく方がこの地域にあってほしい」との意見を頂いているところです。

この意見に私も共感しており、こうした考え方をベースに今後も地域内の中堅・若手たちに呼びかけていきたいと思っております。

◆今後の流れ

- ・12月6～7 ワークショップの開催
- ・12月16日 連合自治会役員会
- ・12月下旬 地域おこし協力隊の募集
- ・1月24日 全体報告会
- ・2月中旬 プラン素案の作成
- ・2月下旬 地域おこし協力隊の面接
- ・3月6日 集落支援員の募集(広報あびら)
- ・3月中旬 プラン案の作成
- ・4月中旬 地域運営組織の立ち上げ

以下別紙資料のとおり